

点検評価シート

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)人権施策の推進	①人権の啓発 ②人権教育の推進	○管理職及び一般教職員対象の研修会の充実 (入間市人権教育研修会3回、西部地区人権教育実践報告会、入間地区人権教育研究集会、入間市人権教育実践報告会を実施)	計画通り実施	入間市人権教育研修会2回実施。西部地区人権教育実践報告会、書面開催。入間地区人権教育研究集会、担当校各2名参加。入間市人権教育実践報告会、宮寺小発表。	5	5.0	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入間市人権教育研修会は2回の実施、西部地区人権教育実践報告会は書面開催、入間地区人権教育研究集会はオンライン開催、入間市人権教育実践報告会は文書発表とし、状況に応じた開催ができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○入間市人権教育推進委員会による小・中学校で活用できる指導資料の作成	指導資料を2本作成	指導資料を2本作成	5		人権教育に視点を置いた教員の資質向上に寄与する資料を作成することができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○「人権標語」「人権作文」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	全小・中学校(27校)	27校出品	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○男女混合名簿の導入	全小・中学校(27校)	27校で実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○人権問題講演会・人権啓発講座等の開催	人権問題講演会、人権啓発講座の開催	人権問題講演会1回(オンライン配信)、人権啓発講座5回のうち3回の開催	4	4.6	人権啓発講座は、公民館と共催で実施した。今年度は、オンライン参加にも対応したことで、会場参加ができない人も参加することができた。人権問題講演会は、動画投稿サイトでの限定配信にて実施し、107件の視聴があった。	地域課題に則したテーマの取り上げていくために、事業内容の検討や講師選定、フィールドワークの視察先選定が課題である。	社会教育課
		○小・中学校PTAにおける人権教育推進事業の実施	人権教育推進事業PTAを指定し、2回以上の人権教育事業の開催	指定した5校のPTAで1~2回の人権教育推進事業の開催	4		指定PTAは各2回の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回~2回の開催となった。	人権課題は多岐にわたるため、テーマ設定のほか、人権感覚を持ったPTA役員や公民館職員の育成が課題である。	社会教育課
		○人権教育実践報告会の開催	人権教育実践報告会の開催	人権教育実践報告会は報告書を作成し関係団体に送付	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止により発表事例が少ないため入間市人権教育実践報告会は開催せず報告書を作成した。	人権課題は多岐にわたるため、テーマ設定のほか、人権感覚を持ったPTA役員や公民館職員の育成が課題である。	社会教育課
		○人権教育推進協議会の開催	3回開催	3回開催	5		「性的少数者の人権に関する教育を推進するために」をテーマに、3回開催し、提言書を提出することができた。	人権教育の円滑な推進を図り、明るい未来の地域づくりに寄与するために、どのような活動ができるか検討する必要がある。	社会教育課
		○視聴覚教材の購入と貸し出し	人権啓発DVDの購入と貸出	啓発DVD2本購入、視聴者数2,625人	5		啓発DVDについては新たに2本購入し、視聴覚教材をより充実させることができた。また、貸し出しについても活発に行われ、視聴者数も延べ2,625人となり、多くの市民へ啓発を行うことができた。	啓発DVDについては、大変高価であるため、多様化する人権問題に対応できるものを精選して購入する必要がある。また、過去に導入したビデオの中には、今後も視聴できる内容のものもあり、これらを新たにDVDとして購入する必要がある。	社会教育課
		○啓発用品の作製と活用	人権啓発用品の作製	啓発用品(ウェットティッシュ)の作製と事業での活用	5		ウェットティッシュの作成を行い、各事業において啓発活動を行うことができた。	啓発用品を配布する機会を増やす必要がある。	社会教育課
○県・西部地区・運動団体等が開催する研修会等への参加	計画通り参加	計画通り参加	5	計画通り参加できた。	参加者について偏りが見られるため、リーダーとなる職員の育成が課題である。		社会教育課		

第1項 人権の尊重と権利の擁護

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)人権施策の推進	①人権の啓発 ②人権教育の推進	○人権への意識を高める学習機会の提供	学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	10事業	4	4	実施内容、関係機関等の専門性を活かした事業実施、参加者数、参加者の満足度から算出	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2事業が中止になり、全公民館では、人権事業を実施できなかった。実施内容の工夫や関係課との連携強化が必要である。	公民館
(2)平和施策の推進	①平和意識の高揚	○戦争体験者等による「平和を願う講演会」を実施(全中学校を対象)	全中学校(11校)	9校で実施	4	4.5	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催できなかった学校が2校あった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○「平和ポスターコンクール」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	全校に依頼	83点の応募	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課

政策2 生涯学習
第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学習環境の充実	①学習情報の提供 ②学習機会の充実	○生涯学習情報紙「かがやく」の発行	年1回発行	1回発行	4	4.5	編集委員の不在によりこれまでどおりの取材、編集が困難な状況となり、発行形態を見直した。印刷物としての単独発行ではなく市報紙面での掲載に向けて調整を行い、令和4年度からは「広報いるま」コラム欄での掲載が可能となった。本年度は紙面発行ではなく、リニューアル版第1号のWEB限定版として市HPへ掲載し、市民の生涯学習活動の支援と情報提供の継続に努めた。	昨年度から引き続きボランティア編集委員の募集をするも応募者はなく、財政面からも編集・発行形態の見直しが必要な状況であったことから全面的にリニューアルを実施した。「かがやく」のタイトルと市民による生涯学習情報の提供というスタイルは継続し、市内で活動しているサークルや団体等の活動のPRや会員募集などを団体等に執筆依頼して掲載する形とした。掲載媒体は変わった(R4からは市報上)が、休刊することなく発行することで今後も市民への情報提供に努める。	社会教育課
		○インターネット等を活用した学習情報の提供	市公式ホームページに加え、生涯学習をすすめる市民の会HPで様々な生涯学習情報を提供する	計画通り実施	5		「いるま学びの場」(生涯学習サークル・教室情報一覧)のホームページ掲載については、システム上閲覧しにくいところもあるが、分野別に分けるなどできる限り工夫をし、こまめな更新に努める。	社会教育課	
		○「生涯学習茶の都出前講座」の充実	年間40回以上の実施	18回実施	4		申込件数は23件あったが、新型コロナウイルス感染症の影響により5件が中止となった。コロナ禍以前までには回復しなかったが、昨年度(12回)に比べ申込みが増加した。入間市の文化財、狭山茶関係、環境(ごみ)問題に関する講座の申し込みが多かった。	WEB上での広報に努めるとともに、公民館事業や家庭教育、学校教育などでの利用が増えるよう、積極的なPRを行う。	社会教育課
		○「生涯学習ガイドブック」「いるま学びの場」の発行	生涯学習ガイドブック(上・下半期)、いるま学びの場(8月発行)	生涯学習ガイドブック(上・下半期)、いるま学びの場(8月)発行	5		新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、今年度は従来どおり「生涯学習ガイドブック」を上半期編・下半期編の2回発行することができた。「いるま学びの場」についても、計画どおり8月に発行することができた。	市民が利用しやすくなるよう改善に努める。	社会教育課
(2)学習活動の充実	①市民の学び合いの促進 ②団体間の連携の促進	○市民活動団体への活動支援	生涯学習をすすめる市民の会が企画・運営する生涯学習関連施策への協働	計画通り実施	5	5.0	まちの先生事業や生涯学習いじばんの整備、生涯学習をすすめる市民の会の定例会議・部会などに参加し、生涯学習施策を進めるにあたり、密に連携して実施することができた。	生涯学習をすすめる市民の会の運営基盤の整備を行っていく必要がある(幅広い年齢層の会員拡充など)。	社会教育課
		○市民団体、大学等との連携事業の実施	生涯学習フェスティバルの開催、子ども大学の実施	生涯学習フェスティバル実施。子ども大学さやま・いるまの実施。子ども音楽大学は中止。	5		生涯学習フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる開催とし、動画を作成して公開した。子ども大学さやま・いるまについては、定員などを縮小することで東京家政大学に積極的に協力いただき開催することができ、参加者から好評を得ることができた。子ども音楽大学いるまは、開催に向けて準備を進めていたが、直前で新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりやむを得ず中止となった。	行政以外との連携事業においては、協議や準備に時間を要することから、コロナ禍での開催有無の見極めが難しい。今後はコロナ禍での開催方法の検討が必須である。	社会教育課

第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当	
(2) 学習活動の充実	①市民の学び合いの促進 ②団体間の連携の促進	○地域住民が自ら企画運営する事業の支援	学んだことを地域に生かす事業を実施する	3事業	4	4.3	左記の各事業の実施した内容、参加者の満足度から算出	個々の活動や発表の場として公民館以外で活動する団体が増えてきており、他団体とのつながりや地域交流、地域還元に対する意識が希薄化している。地域の伝統文化を守り、次の世代へ継承していくため、人材を発掘、育成していくことが必要である。コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館	
		○世代間交流事業、地域交流事業の実施		9事業	5				公民館	
		○地域の伝統文化を守り育む事業の実施		3事業	4				公民館	
(3) 学習成果の活用	①学びを活用する機会の充実 ②学習機会の充実	○文芸入間の発刊	年1回の発行	3月1日に第44号を発行	5	5.0	編集委員7人の協力により、計画通り第44号を発行することができた。また、特集やデザインを一新し、内容をリニューアルした。	投稿者及び編集委員の高齢化及び減少の問題があり、新たな投稿者の拡充と、編集委員の人材確保に力を入れる必要がある。	社会教育課	
		○生涯学習フェスティバルの開催	第26回いるま生涯学習フェスティバルを開催	12月12日～25日にオンラインでフェスティバルを開催	5				コロナ禍で失われた、生涯学習成果を発表する場や、交流する場を、オンラインで提供することを目的として、「オンラインでいるまなびと」を開催した。37団体が参加し、成果発表や活動紹介の動画を作成し、動画投稿サイトに公開した。期間中に述べ2,631回の動画閲覧回数があり、参加者及び動画閲覧者から概ね好評を得た。	社会教育課
		○まちの先生講座の開催	「まちの先生」を活用した講座の開催	10月初旬から、2月初旬の約5か月にわたり、27講座を開催	5				10年間継続して開催しており、延べ493人が受講した。参加者の約95%が「満足」という結果になった。	社会教育課
		○美術、音楽、演劇、その他芸術の発表会等の開催	学んだことを地域に生かす事業を実施する	29事業	5	4.0	左記の各事業の実施した内容、参加者の満足度から算出	地域で活動するボランティアの発掘や公民館事業を通して、新たにボランティアを、育成していくことが必要である。コロナ禍において、計画していた様々な事業が実施できなかった。新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館	
		○地域住民を講師やボランティアに招いた事業の実施		9事業	4				公民館	
		○ボランティア養成事業の実施		-	3				公民館	
		○各種団体、サークルの地域還元活動を促進する事業の実施		7事業	4				公民館	

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当	
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○新学習指導要領に対応する教材・教具、学校管理備品等の計画的な整備	教材・教具、学校管理備品等を計画的に整備する	計画通り実施	5	4.5	各学校の要望に応じて予算の範囲内で教材備品を計画的に整備し、児童生徒の学習全般に活用することができた。また、老朽化した児童・生徒用机・椅子の入替えを行うことができた。	財政状況は厳しいものの、教育環境に支障をきたすことがないよう、計画的な備品の更新に努める。	教育総務課	
		○学校図書館図書の計画的更新	文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%	小学校 90.09 % 中学校 82.47 %	4		文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%を目標とした結果、令和4年3月末の充足率平均は小学校で90.09%、中学校で82.47%となった。	財政状況は厳しいものの、引き続き学校図書館蔵書充足率100%を目指す。	教育総務課	
		○小中一貫教育を通しての学力向上及び生徒指導の充実		27校で実施	27校で実施	4	4.3	各中学校区で異校種間による合同研修や、乗り入れ授業等を通して、互いの指導方法を学び合うことができた。また、生徒指導、教育相談に関する情報交換を密に行うことで、児童生徒理解を深めることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、各中学校区の特色を生かした事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○狭山茶とふれあう教育の推進		27校で実施	規模を縮小し、27校で実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため体験学習は一部中止となったものの、各学校の実情に合わせ、人間市の特産物である狭山茶に関する学習を行い、特色のある学校づくりにつなげることができた	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校力を高める人事評価制度の推進		全教職員で実施	全教職員で実施	5		人事評価制度を通して教職員の力量を高め、教職員個々の強みや得意分野を更に伸ばさせるとともに、総合的な力量を高めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校評価の充実と積極的な広報		27校で実施	27校で実施	5		全校で自己評価及び関係者評価を実施し、学校だよりなどで公表することができた。その結果を教育活動に活用している。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校評議員制度の充実		27校で実施	27校で実施	4		コロナ禍により実施できない学期もあったが、学校の工夫した取組を理解してもらえた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○委嘱研究の奨励と学校支援の充実		27校で実施	27校で実施	5		委嘱校においては、着実な研究を進め、学校テーマに即した研究発表(リモートでの発表)を実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○校長会議、教頭会議の定期・臨時の開催及びその充実		校長会議12回 教頭会議4回実施	校長会議12回 教頭会議4回実施	5		事前の資料精査・配付・効果的な説明を心掛け、短時間で充実した会議運営を図ることができた。状況に応じ、リモートでも開催した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○家庭・地域との連携・協働を通じた学校づくりの推進		27校で実施	一部実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら可能な限りPTA活動、青少年健全育成会との連携を指導し、地域に根ざした学校づくりを推進した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○ホームページや教育広報「いるま」(年2回発行)での情報発信		『教育広報「いるま」』の年2回の発行とホームページへのアップ	7月と3月に実施	5	新型コロナウイルス感染症への対応を掲載するなど、市や各校のホームページを充実させた。ホームページや教育広報を活用して、各学校の取組等を情報発信することで、保護者、市民に広く理解してもらうことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○コミュニティFM放送、CATVと連携した広報活動の充実		FM茶笛や入間ケーブルテレビ、各学校と連携して実施	計画通り実施	4	新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、学校の話やトピック情報を広く市民に広報することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○教職員の不祥事防止のための研修の充実	27校で実施	27校で実施	4	(4.3)	全校で実施し、チェックリストによる確認、事例研修やロールプレイをとおして規範意識を高めた。また、年度当初に市教委作成のリーフレットを配布した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校と地域をつなぐ、地域交流研修会の実施	27校で実施	27校で実施	5		全校で自己評価及び関係者評価を実施し、学校だよりなどで公表することができた。その結果を教育活動に活用している。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニティスクールの検討	27校で実施	27校で実施	4		コロナ禍により実施できない学期もあったが、学校の工夫した取組を理解してもらえた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○感染症対策の推進と安全・安心な学校づくり	全校実施	全校実施	5		学校における「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を作成し、児童生徒や教職員の感染防止に取り組むことができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○各校の実態に即した生徒指導体制の確立とその支援	毎学期の生徒指導訪問と、生徒指導主任研究協議会時に確認	2・3学期実施	4		生徒指導訪問及び生徒指導主任研究協議会時に、報告・連絡・相談体制が確立されているかを確認し、指導した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○全校各学期1回の生徒指導訪問による実態把握と学校への支援	小学校16校×3回 中学校11校×3回	小学校16校×2回 中学校11校×2回	4		生徒指導に関する訪問を通して、各校の課題を把握するとともに、児童生徒への支援方法について指導助言を行った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの推進	いじめ問題調査審議会:年1回 いじめ問題対策連絡協議会:年2回	いじめ問題調査審議会:年1回 いじめ問題対策連絡協議会:年2回	4		いじめ防止基本方針に基づき、調査審議会を1回、連絡協議会を2回実施した。その中で、本市の現状と取組について報告し、各方面から示唆をいただいた。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○学校、さわやか相談室、教育センター相談室、適応指導教室(ひばり教室)の連携による総合的な不登校対策の推進	・月7日以上の欠席者の報告:年11回 ・生徒指導訪問時による確認:各学期1回 ・スクールカウンセラーの全校配置	・月7日以上の欠席者の報告:年11回 ・生徒指導訪問時による確認:2・3学期各1回 ・スクールカウンセラーの全校配置	4		月7日以上の欠席者を各学校から報告させ、児童生徒の現状やその変化について把握した。それを基に、生徒指導訪問時で確認し、支援方法について助言を行った。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○児童発達支援センターやこども支援課等の関係各課や、児童相談所、保健所及び医療機関等の関係機関と連携した不登校児童生徒や児童虐待への支援	要保護児童対策地域協議会 ・毎月第二火曜日	要保護児童対策地域協議会 ・毎月第二火曜日	4		こども支援課と密に連絡を取り合いながら、子どもの支援を行った。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
○警察、児童相談所等及び関係諸機関等と連携した非行防止教室、情報モラル教室、薬物乱用防止教室の全校実施	全校実施	一部の学校にて実施	4	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一部中止になった学校もあったが、例年通り非行防止教室、情報モラル教室などを実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○市長部局実施の事業(生活支援課の「アスポート事業」、子ども支援課の「一人親家庭の学習支援」)との積極的連携	年4回実施	年4回実施	5	(4.3)	学校での様子等を情報提供するとともに、アスポートでの様子について報告を受け、児童生徒支援の一助とした。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小中学校への巡回支援とその充実	400回	400回未満	4		コロナ禍ではあったが延期等、日程調整を行うことで、回数を確保できた。また、1回の訪問で複数の教員を指導するなど、指導の質は落とさず実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼児の通級指導教室「茶おちゃお教室」、小中学校の通級指導教室の充実	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	4		茶おちゃおへは、スーパーバイザー巡回支援や臨床心理士、作業療法士の巡回支援でつながった幼児もいる。通級巡回は1担当者につき各学期2回ずつ実施することで児童の実態を把握し先生方の指導方法を改善するよい機会となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「遊びと学びの手引き(本編)」及び「遊びと学びの手引き(安全編)」の活用促進	4月に研修会実施	4月に研修会実施	4		1学年を初めてもつ担任・間隔が空いた担任を対象に行った。保幼小連携できる学びの手引きを周知することで、連携を図るよい機会となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○保・幼・小・中・高の交流、連携の推進	・保幼小中連絡会、小中連絡会の全校実施 ・中高特連絡会の実施	一部実施、一部休止	4		コロナ禍により、集合型の連絡会は規模を縮小・オンライン・オンデマンドにするなど工夫し実施。中高特連絡会は、市外の近隣の学校も参加し、理解を深める充実した会になっている。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○特別支援学校との連携の推進(入間わかくさ高等特別支援学校、狭山特別支援学校、日高特別支援学校等)	各学校の実態に応じて実施	一部実施、一部休止 支援籍学習については学校ごとの判断	4		支援籍学習や支援学校のコーディネーターの派遣、学校見学等を行い、連携を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の学習講座・支援講座の充実	親の学習講座:約80回 親支援講座:年2回	親の学習講座:7回 親支援講座:年4回	4		親の学習講座は参加型・コミュニケーションを非常に大切にしている講座ということや施設側の都合があるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により、ほぼ実施することができなかった。親支援講座は児童発達支援センターと共催し、WEB会議システムなども活用し実施できた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、オンライン開催なども検討し、事業の継続と内容の充実を図る。	学校教育課
		○「育ちの記録シート」の活用促進	1歳6ヶ月検診にて配布	1歳6ヶ月検診にて配布	4		就学時健診での配布を1歳6ヶ月健診に改めたことで、育ちの記録シートの活用を、より早い段階から実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会を通しての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・実施 ・400回未満	4		研修会や巡回支援を通して、保育士や教師が子どもや保護者に対しての支援の仕方を向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○児童発達支援センターとの連携	・就学に関わる相談 ・親支援講座 ・職員間交流	・10件 ・年4回 ・年5回	4		就学に関わる相談について連携を図り、柔軟に対応できた。また、親支援講座開催について周知協力等をすすめられた。茶おちゃおスタッフや児童発達支援センター「ういず」の心理士の派遣について協力できた。	子ども未来室と事業と事業を共催し、連携の充実を図る。	学校教育課
		○就学援助制度による学校諸経費、学用品費、給食費、校外活動・修学旅行費等の支援充実	申請に基づき、審査のうえ実施	計画通り実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小・中学校入学時の学用品費の入学前支給	12月と3月に実施	12月と3月に実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新入生保護者の活用や市長部局(子ども支援部、生活支援課)との連携による就学援助制度の確実な周知	16校及び各課と連携して実施	16校及び各課と連携して実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○働き方改革基本方針に基づく働き方改革の推進	27校で実施	27校で実施	4	「学校における働き方改革基本方針」に基づき、校長会議を通して各校の行事の見直しや超過在校時間の削減を図った。学校日誌の電子化、職員室の留守番電話を導入した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実	○「事務の共同実施」の導入	27校で実施	27校で実施	5	(4.3)	令和2年度の試行を受けて、令和3年度は全面実施できた。 事務処理の正確性を高めるとともに事務職員間の情報共有、事務職員と事務局とのスムーズな意思疎通を図ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○事務処理等の電子化の推進	27校で実施	27校で実施	4		本年度から学校日誌の電子化を図った。各校ごとに従来のものと選択できるようにした。令和4年度から完全電子化となる。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
(2)学校教育内容の充実		○「学び合い」「教え合い」等、主体的・対話的で深い学びの視点をいかした授業づくりの充実(学びのスタンダード1の活用)	27校で実施	27校で実施	5	4.3	指導訪問を活用して教職員の指導力の向上を図ることができた。コロナ禍であったが、学び合いの学習を工夫して実施した。	委嘱研究、指導訪問を活用して、さらに指導力の向上を図る。	学校教育課
	①学力向上策の充実	○学校指導訪問や授業研究を通じた教職員の指導力の向上(授業分析12の視点の活用)	13校で実施	13校で実施	5		コロナ禍であったが、規模を縮小して実施した。授業分析12の視点を活用し、研究協議等フィードバックを全訪問で実施し、協議内容を深めることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	②教職員研修の充実	○小中一貫教育を通じた学習規律の共通化と指導力の向上	27校で実施	27校で実施	4		コロナ禍で集合型の研修会は実施しづらい状況だったので、例年通りの充実度は実現できなかったが、学習規律の共通化の取組は各中学校校区で実施した。	事業を継続し、内容の見直しを図りながら継続をしていく。	学校教育課
	③豊かな心を育む教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点をいかした授業づくりの充実	27校で実施	27校で実施	5		学校指導訪問や研修会等でユニバーサルデザインの視点を生かした授業を学んだ。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	④健康・安全教育及び食育の推進	○教科指導員の小・中学校への配置や少人数指導や通級指導等による個に応じた教育の推進	27校で実施	27校で実施	5		県の少人数指導加配や教科指導員を活用し、少人数指導やティームティーチングを推進することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	⑤新学習指導要領への対応	○英語指導助手(AET)の小・中学校配置による外国語教育の充実	27校で実施	27校で実施	4		外国語教育を全校で実施したが、コロナ禍により、従来のように対面でコミュニケーションをとりながら行う指導が十分に実施できなかった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○家庭学習の充実(学びのスタンダード2の活用)	27校で実施	27校で実施	5		学力向上スタンダード(2)を全教員に配布し、家庭学習の充実に取り組んだ。	ひきつづき、スタンダードを活用しながら家庭学習を充実させる。	学校教育課

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○学び合い・話し合いの充実(学びのスタンダード3の活用)	27校で実施	27校で実施	5	(4.3)	学力向上スタンダード(3)を全教員に配布し、話し合い活動の充実に取り組んだ。	ひきつづき、スタンダードを活用しながら対話的な学びを充実させる。	学校教育課
		○プログラミング教育やタブレット等を活用したICT教育の充実	27校で実施	27校で実施	5		国のGIGAスクール構想を受けて、入間市全児童生徒にタブレット端末を導入し、研修会を実施した。	ひきつづき、教職員研修を実施する。	学校教育課
		○体系的な教職員研修計画の立案と確実な実施	27本実施	21本実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、状況に応じ形態を工夫し実施した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○学校教育の向上・研究を目指した各種委員会の設置 (小学校外国語研究委員会、学力向上推進委員会、体力向上推進委員会、人権教育推進委員会、教育広報編集委員会、入間市就学支援委員会、入間市教育センター運営委員会、入間市博物館・学校連携事業研究委員会)	27校から委員を選出し、成果の波及を目指す。	27校から委員を選出できた。	5		全校の教職員の協力を得て、事業を進めることができた。	変化に応じた委員会の業務の見直しを実施する。	学校教育課
		○経験、ライフステージに応じた研修の充実	27本実施	21本実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、状況に応じ形態を工夫し実施した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○小中一貫教育のベースとなる小5担任育成に特化した研修の実施	小5担任育成研修会実施	一部実施、一部中止	4		目的と計画に則って実施することにより、小中一貫教育のベースとなる小5担任育成に資することができた。	変化に応じた研修の内容について見直しを実施する。	学校教育課
		○スクールリーダー及びミドルリーダーの育成を目指した研修の充実	スクールリーダーおよびミドルリーダーの研修会の実施	一部実施、一部中止	4		教育活動における取り組みの見直しや情報の共有を行うことで、ミドルリーダーを育成することができた。スクールリーダー研修会は視察研修は中止、学校経営研修会は実施した。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○指導主事の担当制による初任教員に寄り添った丁寧な育成の実施	27校実施	27校実施	5		授業参観と指導を、計画的に実施し、初任者の育成や情報を共有することができた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○拠点校指導教員との連携	年1回実施	計画通り実施	5		研修会を実施し、初任者の育成の充実に努めることができた。	研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○臨時的任用教員の服務規律の確保とスキルアップを目指した研修の充実	市内で1~2年目の教員を対象とした研修会の実施	机上研修	5		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から机上研修とした。服務関係を中心に、教員としての自覚を身に付けさせる研修とすることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○新学習指導要領に対応するための研修の充実	道徳研修会、プログラミング教育研修会実施	27校で実施	5	道徳やプログラミング学習など、新学習指導要領にそった研修を充実させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○学校の全教育活動を通じた道徳教育及び人権教育の充実	全27校全体計画の作成	27校で実施	5	(4.3)	各学校で工夫を凝らして、道徳教育及び人権教育の充実に尽力した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体験活動、地域人材、地域教材を生かした学習指導の推進	27校で実施	一部実施	3		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止または規模を縮小しての取組となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○狭山茶とふれあう教育の推進 (小学校:茶摘み体験、手揉み茶体験 中学校:茶道(盆点前)体験)	27校で実施	27校1部実施	3		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、茶摘み体験、手揉み茶体験は内容や規模を縮小した取り組みとなり、茶道(盆点前)体験については中止とした。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○入間市博物館での学習を通じた郷土教育(歴史・文化・狭山茶)の充実	27校で実施	27校1部実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大のため、小学校3年生対象の「むかしのくらしと道具展」学習は16校中6校が中止となった。小学校6年生と中学生対象の郷土教育はすべて実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○外国語活動・英語教育の充実や英語指導助手(AET)とのふれあいを通してのグローバルな視点と感覚の育成	27校で実施	27校で実施	5		(外国語)活動・英語教育の授業改善を図った。学校規模に応じて、各校にAETを配置し、グローバルな視点と感覚を育成した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体育授業、体育的活動の量的確保と指導内容の充実	27校で実施	27校で実施	3		コロナ禍で実施が難しい活動もあったが、可能な範囲で量的確保を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新体力テストの結果分析を活かした指導及び体育指導の質的向上を目指した研修の実施	27校で実施	27校で実施	3		コロナ禍で、十分な練習ができなかったが、可能な範囲で質的確保を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体力向上を目指した教育活動の工夫改善と学校への支援の充実	27校で実施	27校で実施	3		コロナ禍で実施が難しい活動もあったが、可能な範囲で量的確保を図った。体力向上推進委員会にて広報誌を発行した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小・中学校の全学年を対象とした交通安全教室の実施	27校で実施	小学校16校で実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を縮小した。小学校は学年ごとに安全教室を開催した。中学校は開催形態の関係で実施できなかった。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ可能な学校での実施を目指す。	学校教育課
		○自転車運転免許の取得(小学校4年)と自転車運転免許更新(中学校1年)の実施	27校で実施	27校で実施	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を縮小した。各校独自で可能な範囲で交通安全のための取り組みを実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ可能な学校での実施を目指す。	学校教育課
○ヘルメットの着用の推進	27校で実施	27校で実施	4	着用の推進を図ることができたが、報告を受ける自転車事故の中には、ヘルメット未着用者もみられる。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○危険回避能力を育てる避難訓練の実施と防災訓練への参加促進	27校で実施	27校で実施	3	全校で避難訓練を実施することができたが、入間市の防災訓練はコロナ禍で中止となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当	
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○栄養教諭等の活用による「食に関する指導」の推進	7校で実施	7校で実施	5	(4.3)	各校ごとに「食に関する指導」を実施できた。また保護者向けの講義や給食だよりの発行など地域に向けた活動もできた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	
		○「入間市学校食物アレルギー対応マニュアル」に基づいた対応の実施	27校で実施	27校で実施	5		全校で統一した対応ができた。国・県のマニュアル改訂に伴い早急に対応すべき部分については協議の上、対応できた。	国、県の改訂を踏まえ、市のマニュアルについて見直し、改訂作業をすすめていく。	学校教育課	
		○国民運動「早寝、早起き、朝ごはん」の推奨	保健指導を中心に養護教諭と連携し、全27校で実施	計画通り実施	5		計画どおり実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	
		○地場産の農産物等の学校教育への活用	27校で実施	27校で実施	5		ふるさと学校給食月間を利用し、地場産野菜について児童生徒に知ってもらうことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	
		○感染症への正しい理解と対応	27校で実施	27校で実施	5		学校における「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を作成し、児童生徒や教職員の感染防止に取り組むことができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	
			○「学び合い」「教え合い」等主体的・対話的で深い学びの視点をいかした授業づくりの充実(学びのスタンダード1および3の活用)	27校で実施	27校で実施	5		主体的・対話的で深い学びを充実させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
			○英語指導助手(AET)の小・中学校配置による外国語教育の充実	27校で実施	27校で実施	4		特に小学校においては、外国語の教科化に伴い、一層AETの役割が大きくなったため増員が求められるが、全校に配置したことで充実した授業を実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
			○プログラミング教育やタブレット等を活用したICT教育の充実	全3回の実施	全体オンライン研修1回実施 学校の要請による研修4校で実施	3		ミライシードの活用を各学校の活用推進者が参加し、利活用方法を研修することができた。他の研修は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。	学習の目的に応じた利活用ができるように内容の充実を図っていく。	学校教育課
			○旬の食材の使用や毎月1回の行事食の提供等を通じて、食文化への理解を促す。また、健康な体を育むためや、食の大切さ等を児童生徒・保護者へ伝えるために、手作り給食を提供する。	毎月実施	毎月実施	4	4.3	国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供ができた。これらについて、献立表や給食だよりで等の周知を図った。	児童生徒の知的好奇心を刺激し、学び、知ることが心を豊かにし、生きる喜びにつながることを実感できる給食の提供のため、献立立案会議や学校給食打合せ会等により、引き続き取り組んでいく。	学校給食課
			○安全な給食食材の確保をするため各種検査を実施 目標実施回数 (1)食中毒菌検査 年2回 (2)食品理化学検査 年2回	計画通り	(1)年2回 (2)年2回	5		食中毒等の事故を起こすことも無く、安全安心でおいしい給食の提供ができた。※新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休業期間中の検査が未実施となった。放射性物質測定は事業の見直しを行い実施を見送った。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課
	○地場産(県内産・入間市産)の農作物を使った献立の提供	年9回の実施	年10回	5	地元で農業を営んでいる生産者グループと入間市茶業協会から納入された地場農産物を学校給食で使用することで、地産地消に取り組んだ。	今後も地場農産物を学校給食で使用することで、地産地消に取り組む。		学校給食課		
	○調理場のドライ運用の徹底及び推進	100%	56%	3	調理場がドライシステムになっていないため、ドライ運用に準じた方法で作業を行っている。	調理場のドライ運用については、施設の改修が必要であるため、公共マネジメント事業計画との整合性を図りながら計画的に進めていく。		学校給食課		

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実	○給食の安全を確保するため、調理員等への各種研修を実施 目標実施回数 (1)衛生研修 年1回 (2)食育研修 年1回 (3)衛生講習会への参加 年1回	計画通り	(1)計画通り実施 (2)計画通り実施 (3)実施せず	4	(4.3)	新型コロナウイルス感染症拡大のため、衛生研修と食育研修は、調理場ごとのDVD視聴・研修を実施した。県主催の衛生講習会は中止となった。	衛生研修と食育研修については、今後の感染状況に応じて実施方法を検討する必要がある。講義以外の代替方法としてDVD視聴や調理場ごとの課題解決等を検討した。衛生講習会は県で実施するのであれば参加していく。	学校給食課
	③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○衛生管理基準に基づく保菌検査等を実施 (1)保菌検査 月2回 (2)ノロウイルス定期一斉検査 年1回	計画通り	計画通り実施	5		食中毒等の事故を起こすことなく、安全、安心でおいしい給食の提供ができた。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課

政策3 幼児・学校教育
第2項 子ども・子育て支援の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)幼児教育の環境整備	①子ども未来室事業の推進 ②幼児の通級指導を通じた支援 ③保護者への情報提供と支援 ④保・幼・小・中連携のための接続研修会の実施	○幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小中学校への巡回支援とその充実	400回	300回程度	4	4.3	コロナ禍により、回数は若干到達することはできなかったが、1度の訪問で、スクールソーシャルワーカーや指導主事などから複数の教員の指導を行うなど方法を工夫し、指導助言を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会を通しての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・2回 ・200回程度	3		・保幼小中接続に関して共通理解を図るよい機会となった。 ・指導主事、臨床心理士などの巡回支援を通して、保育士や教師に対する指導の方法について助言することで、支援の在り方について向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の不安軽減を目指した支援の充実	茶おちゃお保護者講演会の実施4回(臨床心理士・作業療法士による)	4回実施	5		茶おちゃおに通う保護者に講演会を行うことで、保護者の不安の解消や子どもへの具体的な支援の仕方について理解を深めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○市長部局(こども支援課、保育幼稚園課、児童発達支援センター、健康福祉センター)との連携の充実	子どもの発達に係る連携会議5回	5回実施	5		昨年度、児童発達センターが開設され、連携が進んだ。児童発達支援について小学校との連携が進んだ。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニケーション能力や感情のコントロール、集団生活での適応能力や自己肯定感の醸成を目指した幼児の通級指導「茶おちゃお教室」の充実	2週間に1度ずつ、後半はグループの人数を増やして実施	一部計画通り実施	5		コロナ禍により、小学校への入学に向け、2・3人のグループから5・6人のグループでの指導が実施できなかったが、指導内容を工夫することで、集団生活に向け準備を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小学校との連携を通じた指導体制の整備と充実	遊びと学びの手引きの活用100%	95%活用	5		「遊びと学びの手引き」を活用することで、幼保から小への接続がスムーズに行うことができる体制を整えることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼稚園、保育所(園)、認定こども園にて親の不安軽減を目指した「親の学習講座」の実施	36園・所のうち半分実施	1施設にて7回実施	3		参加型・コミュニケーションを非常に大切にする講座ということや施設側の都合があるためコロナ禍での実施が難しかった。	多くの園・所で行えるよう広めていく。新たな講師を迎え、新しい生活様式に合わせた開催を工夫していく。	学校教育課
		○子育てに関するノウハウなどの情報提供と親に寄り添った支援の充実	特別支援学級と通級保護者対象に年3回ずつの研修会の実施	特別支援学級と通級保護者対象に年2回ずつの研修会の実施	4		コロナ禍ではあったが、WEB会議システムを活用し医師など専門性の高い講師の招聘、入間わかさ高等特別支援学校の見学等、充実した講座ができた。	保護者のニーズに応じた講座を実施する。	学校教育課
		○保育士、教諭等を対象とした発達障害への理解と適切な指導方法を学ぶ研修会の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回	・保幼小中連携研修会の実施 2回	4		・発達障害への理解と指導方法をテーマに設定することで、早期支援・切れ目のない支援について共通理解を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○異校種間のなめらかな接続を目指して、スキル獲得に特化した研修会の充実	・遊びと学びの手引き研修会 1回 ・保幼小中連携研修会の実施 2回	・遊びと学びの手引き研修会 1回 ・保幼小中連携研修会の実施 2回	5		・「遊びと学びの手引き」を活用することで、幼保から小への接続がスムーズに行うことができる体制を整えることができた。 ・保幼小中接続に関して共通理解を図ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課

政策3 幼児・学校教育

第3項 学校施設の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1) 学校施設の充実・最適化	①校舎・屋内運動場の整備	○小・中学校施設における維持管理	95業務	93業務	5	5.0	令和3年度は、害虫の発生や、排水管の詰まりなどの件数が少なく、事業実績が事業目標を下回る結果となった。ただし、各施設の維持管理、設備の保守点検は目標どおり実施するとともに、各学校で課題となっている樹木についても、伐採や剪定等適切に行うことができた。	施設の老朽化が進んでおり、修繕をしても、新たに指摘が出る状況に変わりはないが、徐々に指摘事項が減少傾向に転じており、限られた財源ではあるが、指摘事項の一覧を基に引き続き改善していく必要がある。また、適切な樹木管理についても継続的に実施していく	教育総務課
		○小学校施設における整備事業の計画的な推進 (1)黒須小学校埋設都市ガス管耐震改修工事実施設計業務委託 (2)東金子小学校外9校埋設プロパンガス管耐震調査業務委託 (3)藤沢北小学校校舎便所改修工事実施設計業務委託 (4)東町小学校屋内運動場外壁等改修工事実施設計業務委託 (5)扇小学校屋内運動場共用便所改修等工事実施設計業務委託 (6)豊岡小学校、藤沢東小学校校舎屋上防水等改修工事 (7)扇小学校校舎便所改修工事 (8)東町小学校下水道本管接続工事 (9)西武小学校プールろ過装置改修工事 (10)東金子小学校、藤沢南小学校屋内運動場共用便所改修等工事 (11)校舎内環境整備工事(火災報知器・冷暖房機等改修) (12)校舎内環境整備工事(便器洋式化改修) (13)バリアフリー化・障がい対応改修工事 (14)障がいのある児童等に係る改修工事 (15)合理的配慮の提供に係る改修工事 (16)遊具・体育器具改修工事 (17)仏子小学校、高倉小学校消防設備(屋内消火栓)改修工事 (18)豊岡小学校給水設備改修工事(繰越事業)	28事業	36事業	5		令和2年度からの事業として、豊岡小学校給水管改修工事が、計画どおり工事完了となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う工事用資材の遅れや価格の高騰が発生したが、早期発注を目指し、大きな影響を受けることなく、目標を達成することができた。	老朽化に起因した不測の事態が生じたり、近年は天候不順による災害など、不測の事態となるケースがあるため、関係各課との連携を強化している。市及び市民の防災への意識が向上しており、災害時の避難所となる屋内運動場の雨漏りや男女別トイレ、多目的トイレの改修なども計画的に進め、校舎のトイレ改修など時代に適した施設整備を進めていく必要がある。 また、令和3年度から35人学級編制が開始されたことや、バリアフリー法の改正により、これまでの学校施設整備に加え、新たな課題もあるため、公共施設マネジメント事業計画や、教育委員会の『人間市立小・中学校の適正化に関する基本方針』に基づき、統廃合や大規模改修、長寿命化、改築工事等を計画的に進めていかなければならない。	教育総務課
		○中学校施設における整備事業の計画的な推進 (1)上藤沢中学校校舎等改修工事実施設計業務委託 (2)金子中学校他6校埋設プロパンガス管耐改修工事実施設計業務委託 (3)藤沢中学校校舎便所改修工事 (4)藤沢中学校屋内運動場屋根端部改修工事 (5)校舎内環境整備工事(火災報知器・冷暖房機等改修) (6)校舎内環境整備工事(便器洋式化改修) (7)バリアフリー化・障がい対応改修工事 (8)障がいのある児童等に係る改修工事 (9)合理的配慮の提供に係る改修工事 (10)遊具・体育器具改修工事 (11)藤沢中学校、野田中学校消防設備(屋内消火栓)改修工事	14事業	18事業	5				教育総務課
(2) 学校給食施設・設備の充実	①学校給食センター施設・設備の整備 ②自校給食施設・設備の整備	○学校給食センター施設・設備の充実 既設調理機器(受配校の牛乳保冷庫など)の更新	計画通り	計画通り実施	5	4.3	センター更新を見据えた保守及び修繕により施設の運営管理に努めた。	学校給食センターの更新を見据えて、今後は最低限の入れ替えにとどめ、保守及び修繕により、老朽化した調理機器を使用することになる。	学校給食課
		○自校給食施設・設備の整備 既設調理機器(スチームコンベクションオープン、真空冷却器、冷凍冷蔵庫など)の更新	計画通り	計画通り実施	5		老朽化した調理機器の計画的な入れ替え等、効率的な施設の運営管理に努めた。また、夏場の衛生管理や献立の充実を図るため、新規に調理機器を導入した。	今後も老朽化した調理機器の計画的な入れ替えが必要。	学校給食課
		○学校給食センター更新に係る基本構想及び基本計画の策定	計画通り	基本構想案の検討	3		センター更新に係る基本構想案の検討を行った。また、学校給食センターの更新について、関係課との協議を進めた。	基本構想及び基本計画策定に向けたスケジュールを立て、関係課及び関係機関と調整を進める。	学校給食課

政策4 社会教育
第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○現代的・社会的課題に対応した社会教育事業の充実を図り、仲間づくりや市民の主体的な学習活動を促進します。	小学生夏休み体験一覧表の作成	小学生夏休み体験一覧表(7月)発行	5	5.0	環境への配慮から、従来の冊子の作成・配布を最小限にとどめ、児童がタブレット端末で一覧表を閲覧できるように二次元バーコード付きのチラシ配布に代えた。	掲載事業の拡充を図り、事業への参加者の増加を目指す。	社会教育課
		○お茶と地域を総合的に学び、体験する「アリットお茶大学」の開催(講座数8講座)	受講者延べ510人	433人(大人のみ)実施9講座	4	4.7	新型コロナウイルス感染症の影響で募集人数を減らし、開催延期になった講座もあったが、令和3年度に予定していた全講座を実施できた。受講者からの満足度も高かった。	継続して魅力ある講座を実施していく。	博物館
		○地域の歴史・文化やお茶に関する資料の収集・整理、データベース化の実施	3,000件	4,122件	5		博物館の資料データ入力、実物資料を目にすることはじめて行えることもあり、リモートワークでは十分に対応できない。そのためコロナ禍の現状では目標値をやや低めにした。	データ化に携わる人材、時間、予算確保に努めていく。	博物館
		○地場産業の狭山茶、織物等と結びついた講座等の事業を各1事業実施	各1計2事業	1事業	4		新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。	講座に関わる人材の育成を行っていく。	博物館
		○市民に身近な博物館としての工夫した展示事業や出前講座を延べ30回実施	延べ30回	14回(中止1回)	4		新型コロナウイルス感染症の影響で依頼が減少し、依頼があったものについても中止された回があった。また、「茶の都出前講座」については、講師となっていた学芸員が異動した影響により、一部の講座が社会教育課の担当となったため依頼が減少した。講座の内容については、多くの受講生から好評を得ることができた。	コロナ禍での講座をどのような形で提供していくかが課題である。また、講師を務める際に専門性が必要な講座が多く、担当者の異動によって実施できる講座が左右されてしまうという問題もある。講座の内容については、博物館の現状に合わせ、適宜追加・更新していく必要がある。	博物館
		○指定管理者による自主事業の実施	展示2回 イベント5種類	展示2回 イベント10種類	5		新型コロナウイルス感染症予防のため、人数制限等をした中での実施となったが、柔軟な発想により新規のイベントを実施することで、普段博物館に足を運ばない層の来場者呼び起こせた。	引き続き来館者ニーズを捉え、また、新しい博物館ファンを獲得できるようなイベントを実施していく。	博物館
		○エントランス展示の実施	7回	7回	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止策としてエントランスに仮設受付を設置しており、例年通りの展示を行うことは難しかったが、おおむね計画通りにエントランス展示を実施することができた。	回数にこだわらず、指定管理者と共にエントランス展示の充実を図る。	博物館
		○博物館運営の自己評価及び博物館協議会による外部評価と市民への公表	外部評価実施と市民への公表	外部評価、公表予定	5		計画通りに実施することができた。	継続して実施していく。	博物館
		○常設展示リニューアルに向けての準備	実施	実施	5		限られた予算での効果的なリニューアルの手法、作業による休止期間の短縮を図るための工程の検討等、令和4年度のリニューアル実施に向けての準備を進めることができた。	検討内容を令和4年度の改修につなげていく。	博物館
		○ホームページの即時的な更新による新鮮で充実した情報提供(ホームページ閲覧目標33万回)	閲覧延べ30万回	323, 871回	5		ホームページの更新に加え、SNSの活用、特にFacebookに加えTwitterでの発信も開始し、情報提供に努めている。	今後も継続して実施していく。	博物館
○市報掲載、地元公民館報へ博物館情報を提供	12回	12回	5	予定通り掲載された。	今後も継続して実施していく。		博物館		
○コミュニティFM放送、CATV、新聞各社等へ博物館情報を提供	20回	20回以上	5	計画通りに実施することができた。	今後も継続して実施していく。	博物館			

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当	
(1) 社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○指定管理者によるリニューアル版「ニュース・アリット」の発行(6回)	6回	4回	4	(4.7)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの事業、ボランティア活動が中止となったため、発行回数は4回に減じた。	新型コロナウイルス感染症の推移も見ながら今後も柔軟に対処していく。	博物館	
		○鉄道・バス等への広告掲出及び市内大型商業施設でのチラシ配布、旅行情報誌への広告掲載の実施	実施	実施	5		旅行情報誌へ記事を掲載したほか、指定管理者が池袋駅へのポスター掲出。市としては西武鉄道の車内吊り広告で施設のPRに努めた。	今後も継続して実施していく。	博物館	
		○団体会員向け優待制度等を活用した情報発信の実施	実施	実施	5		優待制度を通して、多くの人へ施設・事業の情報を発信していくことで、来館者層の拡大に努めた	今後も継続して実施していく。	博物館	
		○所蔵資料の更新と、資料蔵書数58万5千点、年間貸出点数86万点を旨す		蔵書数:585,000点 貸出数:860,000点	蔵書数:581,043点 貸出数:689,720点	4	4.6	新型コロナウイルス感染症拡大防止による部分閉館等と、利用者の外出自粛により、貸し出し点数は大幅に落ち込んだ。	図書購入費の確保に努める。新型コロナウイルス感染予防の徹底により予約資料の貸出し数を維持する。	図書館
		○OCDやDVDの視聴覚資料の充実		196点	92点	4		単価の高い「ベスト2枚組」などを多く購入したことにより、購入点数は目標を下回った。	資料の価格と購入目標のバランスをみながら選定する。	図書館
		○子どもの読書推進のための児童書や、調べ学習に使える図書を2,635点購入		2,635点	2,592点	5		概ね順調に購入による受入れができた。特に調べ学習用の図書については、ポプラディア(百科事典)等を購入し提供することができた。	現状を維持する。	図書館
		○市民ニーズに応じて、健康・職業・福祉に関する図書や文学(小説)、大人向け紙芝居など4,775点購入		4,775点	4,671点	5		幅広いジャンルで購入し受入れができた。	資料の価格と購入目標のバランスをみながら選定する。	図書館
		○各種調査研究のための参考図書94点購入		94点	165点	5		毎月、毎年発行されている定例的資料は全て購入できている。	現状を維持する。	図書館
		○視力の弱い方や高齢者の読書推進のための大活字本110点購入		110点	92点	5		出版自体が少なかったため目標値には若干届かなかったが、出版されているものは全て購入できた。	現状を維持する。	図書館
		○電子図書館サービス(電子書籍)の導入		1,400人	1,377人	5		令和3年6月の開始から、利用者登録について概ね目標人数を達成することができた。また、約1,500冊の電子書籍を所蔵することができた。	電子書籍を増加するとともに、利用登録者数も増加するよう、PRに努めたい。	図書館
		○地域情報拠点施設として、地域情報や行政情報の収集、図書館情報の発信及びホームページ等の充実		実施	実施	5		予定通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○パソコン等を利用しない方など情報弱者への、自動応答電話による情報提供の継続		実施	実施	5		予定通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○レファレンスサービス対応のため、県、地区等の研修会に積極的に参加		1回	0回	4		新型コロナウイルス感染症対策のため県の研修会に参加することはできなかったが、研修課題に取り組むことにより、レファレンスに関する知識を習得することができた。	図書館協力レファレンス揭示版などを用いて県内の他館と協力し、レファレンスサービスの向上に努める。	図書館
		○視覚障害者の読書推進のため、録音資料を3点作成		3点	6点	5		利用者と電話でのコミュニケーションを重ね、また、朗読ボランティアの協力を得て、全国の図書館等に所蔵の無い録音図書(デジター図書)を作成、提供することができた。	今後も利用者の方たちとコミュニケーションを重ね、要望に合ったものを作成・提供できるように努める。	図書館
		○ボランティア育成研修会を開催(年1回)		1回	-	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大規模な研修会は開催することはできなかったが、既存の各ボランティアグループごとに勉強会を行い、読み聞かせの知識を習得することができた。	新たなボランティアの育成に努める。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1) 社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○「おはなし会」を全館で延べ350回開催	350回	89回	4	(4.6)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施回数は少なかったが、おはなし会を開催する際には感染対策を行い、安心して参加できるよう工夫した。常連の子ども他、新規の参加もあり、多くの子どもたちがおはなし会を楽しんでくれた。おはなし会中止に伴う代替事業とし、「おうちでおはなし会おたのしみセット」「おすすめ絵本3冊セット」などによる児童書の貸出を行い、読書活動推進に努めた。	今後も、より多くの子どもたちに参加してもらえよう、努めたい。	図書館
		○運営にかかわるボランティア募集と市民参加による運営の推進	実施	実施せず	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため新規のボランティア募集はできなかったが、他市の状況について情報収集を図り研究に努めた。また、ひばり教室の生徒にボランティアとして参加してもらい市民参加の推進を図ることができた。	今後も実施に向けて検討していく。	図書館
		○利用促進事業の開催	40回	40回	5		指定管理の提案事業の2本柱「電子図書館導入」「図書館を使った調べる学習コンクール」の市内事務局として目標以上の実績を残した。また、コロナ禍向け事業として「読書の木」を発売し市内4館すべてで多くの利用者に参加していただけた。感染症予防策による開催延期事業もあったが「歴史講座 渋沢栄一」はタイムリーな内容で参加者の方々に大好評であった。児童向け事業「おたのしみ会」はすべて中止になったが「おたのしみ袋」「フォトブース」設置など分散型代替事業に切替え実施した。(西武分館) 自主事業の実施回数については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止を余儀なくされたが、「五節句飾りとお正月の迎え方」等、実施した講座では、感染防止対策をとりながら図書館利用に供することができた。また、代替事業として「クリスマスおたのしみ袋」を用意し集客しない方法を取り貸出につなげた。(金子分館) おたのしみ会や各種講座等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止や延期となったが、映画会、試験前臨時学習室に加えてハロウィンや福袋等の代替事業が実施できたので、実施回数としてはやや減少という程度を維持することができた。(藤沢分館)	現状を維持する。	図書館
		○「文学講演会」や「おたのしみ会」を開催	文学講演会:100回 おたのしみ会:6回	-	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったが、代替として、少人数での「おはなし会スペシャル」や非集合型事業「おたのしみ袋」「おすすめ絵本3冊セット」等を行った。	継続して実施する。	図書館
		○「図書館だより」を年4回発行	4回	4回	5		目標通り4回発行できた。 電子図書館やブックツリーなど、図書館で行っている事業を詳しく載せることができた。	今後も、図書館の情報や魅力を伝えられよう、記事の内容を充実させていきたい。	図書館
		○子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布(市内の全児童に配布)や「読書ラリー」の実施	1回	1回	5		あれこれブックガイドについては市内の全小学校に配布することができた。 また、読書ラリーについては全館で工夫を凝らした企画を考え、児童たちが喜ぶ景品(とんちゃんカード)を用意し、実施することで、多くの児童に参加してもらうことができた。	継続して実施する。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○本館閲覧席開放事業を継続(本館閲覧席利用者1日15人)	15席	10席	4	(4.6)	緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、部分閉館となった期間があったが、令和3年4月～7月と10月～現在まで夜間開館を実施した。	継続して実施する。	図書館
		○視聴覚ライブラリーを活用した映画会を年24回開催	24回	-	3		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催ができなかったが、プロジェクターと新たなDVDを購入し、開催に備えた。	継続して実施する。	図書館
		○図書館運営の自己評価及び図書館協議会による外部評価と市民への公表	1回	1回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○指定管理者との連携・協力による本館と分館に差異のないサービスの提供	2回	2回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○図書館ホームページを適宜更新し、最新情報を提供	12回	12回	5		更新が遅れることはあったが、毎月1回システム担当による各ページのチェックを行い、情報の刷新を図った。	必要に応じて、チェック項目の更新を図る。	図書館
		○コミュニティFM放送、CATVでの図書館情報と資料紹介	コミュニティFM:50回 CATV:12回	コミュニティFM:53回 CATV:5回	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催ができない事業が多く、CATVへの出演回数が目標に達しなかったが、電子図書館の開始や臨時休館等の重要なお知らせについては、広報することができた。	今後も出演回数の確保に努めたい。	図書館
		○「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載	1回	1回	5	特集記事で、電子図書館について紹介ができた。	今後も担当以外にもアイデアを聞きながら特集記事の内容を決めたい。	図書館	
		○高齢社会に対応した学習機会の提供	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	14事業	4	3.9	実施内容、関係機関等の専門性を活かした事業実施、参加者数、参加者の満足度から算出	コロナ禍において、年間を通して計画していた様々な事業が実施できなかった。新たな事業展開を検討する必要がある。また、コロナ禍における公民館だよりなど紙媒体での情報発信は、制限があり見直していく必要がある。ホームページやフェイスブックをより効果的に活用し情報発信していく必要がある。	公民館
		○健康づくりを推進する学習機会の提供		29事業	5				公民館
		○環境への意識を高める学習機会の提供		13事業	4				公民館
	○安心・安全な暮らしのための学習機会の提供	1事業		3	公民館				
	○人権への意識を高める学習機会の提供	10事業		4	公民館				
	○その他学習機会の提供	1事業		3	公民館				
	○公民館運営の自己評価及び公民館運営審議会による外部評価と市民への公表	評価と公表の実施	1回	4	公民館運営の自己評価及び公民館運営審議会による外部評価はできたが、市民への公表ができなかった。	公民館			
	○公民館ホームページ、公民館だより等を活用した学習情報の提供	学習情報、地域の情報等の充実	学習情報の提供	4	公民館フェイスブックを月1回以上更新・公民館だよりを月1回以上発行した場合2点、地域情報を収集し、公民館だより等で発信した場合2点、図書、地域資料等を整備し提供した場合1点の5点満点	公民館			
	○地域情報(団体情報、地域のトピックス等)の収集、発信					公民館			
	○図書、地域資料等の整備、提供					公民館			

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	OPTA家庭教育学級の支援	小中学校27校PTAが家庭教育学級を年間4~5回開催する	10校が1回、11校が2回開催した。6校が未実施。	4	4.0	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら21校で1回~2回家庭教育学級を実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大の中、いかに安全に実施することができるか課題となっている。また、飲食を伴う講座ができないなど、実施内容についても限られてくるため、対策が必要である。	社会教育課
		〇いるまキッズアカデミーの実施	1回	1回(参加申込者にDVD配付)	4		実施に向けてチラシの作成等準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催は中止した。代替措置として、教材DVDを作製し参加申込者に配付した。	楽しみながら学習することを目的として事業を実施しており、今後も多くの児童生徒が興味を持つようなテーマを検討する。	社会教育課
		〇小中学生を対象とした「こどもお茶大学」の開催	延べ60人	中止	3	新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。なお、次年度以降も会場参加型の事業として実施できない場合を想定し、代替開催の方法を検討した。	継続して実施する。	博物館	
		〇市民や関係機関・関係団体との事業を実施	10事業	5事業	4	イベントや講座などの事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったものもあったが、協力体制は継続している。	継続して実施する。	博物館	
		〇博物館ボランティア会との協働による「夏休み親子で楽しむ遊びの広場」、「むかしのくらしと道具展」関連イベント」等を実施	10事業	中止	3	イベントは新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、協力体制は継続している。なお、次年度以降も事業が実施できない場合を想定し、代替の方法を検討した。	継続して実施する。	博物館	
		〇子どもたちの体験を重視した「むかしのくらしと道具展」の開催	6,500人	3,497人	5	4.1	実物資料・写真等の展示に加え、むかしのくらしをわかりやすく描いた「思い出画」の原画を多数展示した。情勢を考え、参加型の体験に代えて職員による道具の実演を行ったほか、短い動画コンテンツを制作・配信した。また、来館できなかった小学校への資料貸出も行った。	今後も魅力ある道具展を実施していきたいが、実施形態について検討が必要。	博物館
		〇展示室・茶室等を活用した学校授業の実施(市内全小中学校対象)	27校	27校	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながら今年度は実施した。一部の学年で新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖があり博物館学習が出来なかった。	今年度の学校授業の受け入れ方法を検証して、改善していく。	博物館
		〇「むかしのくらしと道具展」を活用した学校授業の実施(市内小学校16校受入)	16校	11校(市外含む)	5		実物資料・写真等の展示に加え、むかしのくらしをわかりやすく描いた「思い出画」の原画を多数展示し、描かれた場面について考えながら鑑賞してもらった。情勢を考え、体験ではなく職員による道具の実演や、道具の用途を考えてもらうクイズを実施した。一部、新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖の影響で来館できない学校があったが、これを補完するため資料の貸出も行った。	今後の学校授業の受け入れ方法を検討していく。	博物館
		〇学校への「出前授業」の実施や資料の貸出	5回	3回	4	令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止していた博物館授業が令和3年度より再開したこともあり、「出前授業」については回数が減少した。お茶や歴史に関する授業を3校で実施した。また、戦争時のくらしに関する貸出資料は、1校の利用があった。	人数に限りがあるので、学芸員が対応する学校利用は、極力来館していただけるよう調整したい。並行して動画配信等の活用を検討していくほか、貸出用資料セットの開発を進め、さらなる利用件数の増加につなげたい。	博物館	
〇図書館見学(小学校3年生)、図書館利用教室(小学校2年生)を市内全校で実施	16校	-	5	4.6	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。代替として、図書館の利用方法などを紹介するDVD「図書館にいこう」を作製し、市内全学校に配布し、視聴してもらった。	図書館を実際に見学することによって、より図書館に親しみをもってもらい、利用促進につなげていけるよう今後も努めていく。ただし、図書館見学の実施は、学校の意向にもよる。図書館利用教室の実施は学校の意向にもよるが、利用教室を通じて、図書館に興味を持ってもらえるよう今後も努めていく。	図書館		

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	○子どもたちを対象とした「プチ1日図書館員」を実施	96人	-	4	(4.6)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったが、図書館を知り、親しみを感じてもらうため、図書館により図書館のサービスを紹介したり、子どもを対象としたぬりえ展を行ったりした。また、ひばり教室の児童生徒に図書館の仕事の体験をしてもらうことができた。	継続して実施する。	図書館
		○学校図書館ボランティア育成のための研修会の開催	50人	-	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったが配本サービス等で、各学校図書館と連携を図ることができた。また、学校のボランティアには団体貸出で読み聞かせ等の本を提供することで育成に努めた。	今後も継続して実施していく。	図書館
		○移動図書館車の学校への定期的な巡回を継続	8校	8校	5		まん延防止等重点措置に伴い運休もあったが、概ね学校巡回に当たっては、通常どおり配車できた。	各学校での移動図書館車の配車時間が合わない学校もあるが、毎年、配車時間を一部調整しながら運行している。	図書館
		○市内の小学校、中学校、高校の図書担当教諭との情報交換会議を開催	1回	-	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため会議は開催できなかったが、団体貸出や共催で本の展示(イチオシ本)等を行い、情報交換と連携に努めた。	今後とも連携を図っていきたい。	図書館
		○配本サービスによる学校等へのサービスを継続(30,000点)	30,000点	26,797点	4		目標の設定が高すぎた面もあるが、目標に大きく届かなかった。	作業人員が厳しい状況であるが、分館の協力を得ながらサービスレベルの維持に努める。	図書館
		○全庁的な子育て支援策の一つとしてブックスタート関連事業の継続	12回	-	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面での事業は実施できなかったため、赤ちゃん向け絵本のリストを作成し、BCG予防接種時に乳児の保護者に配布し、子育て支援に努めた。	今後も継続して実施していく。	図書館
		○庁内関係各課等との連携協力による事業(平和祈念資料展、いるま環境フェア、いるま子育てフェスティバル、ノンビリこそだてひろばまつり等)を実施	9事業	6事業	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できない事業もあったが、「平和祈念資料展」「認知症ブックフェア」「児童虐待防止関連展示」を共催することができた。また、新たに「茶の都出前講座(読み聞かせ)」「埼玉県150周年記念に係る図書展示」(埼玉県との連携)を実施することができた。	今後も継続して実施していく。	図書館
		○「おとなのための朗読会」(1回)、古典朗読会(10回)を各種団体との協力で開催	おとなのための朗読会:1回 古典朗読会:10回	おとなのための朗読会:0回 古典朗読会:2回	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったこともあったが、各種団体と連絡を取り合い、今後の会の方向性について検討することができた。	今後も継続して実施していく。	図書館
	○地域の力を生かした子育て支援事業の実施		20事業	5	4.0	実施内容、関係機関等の専門性を活かした事業実施、参加者数、参加者の満足度から算出	現在、実施している子ども居場所づくり事業をボランティアの協力を得ながら実施していくほか、地域ぐるみで子どもを育てる社会を目指し、活動する団体を支援していく必要がある。地域で活動する団体と協力しながら、親子で参加できる事業を通して親同士が交流できる場を提供していく必要がある。コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館	
	○家庭教育向上のための学習機会の提供		1事業	3				公民館	

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(3) 青少年教育の充実	①体験機会の充実	○令和4年成人式の開催	計画どおり実施	式典は、3部制から5部制へ変更して実施、出席率71.4%	5	5.0	出席率は71.4%であった。式典の3部制から5部制への変更やオンライン同時配信など新型コロナウイルス感染症拡大対策を講じて実施した。	安心、安全な式典が開催できるよう情報提供・情報発信に努める。	社会教育課
	②居場所づくりの充実 ③青少年関係団体の支援の充実 ④青少年を対象にしたスタッフ及びリーダー養成	○青少年の豊かな心を育む事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	70事業	5	5.0	実施内容、関係機関等の連携による事業実施、参加者数、参加者の満足度から算出	青少年体験事業は、地域のボランティアや関係団体との連携による事業の企画を引き続き検討していく。事業を実施するスタッフの確保が十分ではないため、関係団体と協力しながらスタッフを育成する必要がある。地域の団体が主体となる事業については、地域交流・世代間交流につながる事業として協力していく必要がある。 コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館
(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財の保護	○指定文化財の新規指定に向けた審議の実施(3回)	3回実施	2回実施	5	4.7	新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、現地視察を含め十分な会議は開催できなかったが、各委員間で積極的な意見交換を行うことで、指定文化財の選定につなげることができた。また、旧石川組製糸西洋館、旧黒須銀行の保存活用に対して貴重な意見をいただき、今後の計画に生かすことができた。	各分野の専門委員の意見をもとに調査・研究を行い、文化財の価値を高めることで、保存につなげていく。また、活用についても積極的に取り組んでいく必要がある。	博物館
	②文化財保護啓発事業の実施	○指定文化財保存事業への支援(事業計画数1件)	1件	3件	5		当初の計画事業については、コロナ禍の影響等もあり、事業主体者から事業取り止めの申し出があったことから、実施に至らなかった。しかし、年度途中で成立した国補正予算による文化庁補助金を活用することで、新たに2件の指定文化財保存事業について、支援を行うことができた。	各種補助金、助成金の情報を適格に把握するとともに、保存が必要な事業に対しては、所有者等と緊密な連携を取ることで、適切な支援に努めていく。	博物館
	③近代化遺産の保存・活用	○指定無形民俗文化財保持団体の後継者育成事業を支援(6団体)	6団体	6団体	5		指定無形民俗文化財等の保持団体が行う後継者育成等の事業に対して、支援が必要な6団体へ補助金を支出し、文化財の保存を図ることができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で無形民俗文化財等の保持団体は思うような後継者育成の活動を行うことができていない。このため支援が必要な団体については、国補助金等の活用により、更なる運営の支援を行っていく必要がある。	博物館
	④埋蔵文化財の保護	○文化財講座、文化財防火訓練の開催(計5回)	5回	2回	4		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業を縮小または中止せざるを得なかった。6月と11月に公民館との共催による文化財めぐりを実施し、文化財の保護啓発を行った。また、2月の文化財防火訓練は中止となったが、広報事業を通じて、文化財の防火意識を向上させることができた。	感染症対策を講じながら、身近な文化財の紹介を通じて、日常的に文化財に親しむ環境を整備していく。また、公民館や図書館等と連携することで、より多くの市民に文化財に関心を持ってもらう場をつくり、文化財の保護啓発につなげていく必要がある。	博物館
	⑤伝統文化活動団体の支援の充実								

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○西洋館公開活用事業の実施(入館者数3,000名)	3,000名	2,944名	5	(4.7)	新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた一般公開や各種事業が中止となった。それでも建物の一般公開は延べ43日間、西洋館の魅力を生かした主催・共催事業を計9事業実施した。入館者は、一般公開で2,455人、他の事業で489人、延べ2,944人であった。コロナ禍にあつて、少しでも多くの人に西洋館のことを知ってもらえるような事業を行い、保存活用につなげることができた。	感染症対策を講じながら、一般公開や様々な事業を実施することで、継続的に西洋館のPRと保護啓発を図っていく必要がある。また、各事業を通じて、令和3年度から設置した「入間市文化財保存活用基金」への周知を図り、将来的な西洋館の保存につなげていくことも重要である。	博物館
		○旧黒須銀行公開事業の実施(6回)	6回	12回	5		渋沢栄一を主人公とするNHK大河ドラマ『青天を衝け』の放送が開始したこともあり、令和3年度は公開日を増やして対応した。臨時公開日も含め12日間の公開日を設定し、公開日の見学者は述べ1,571名であった。公開日以外に47名の団体見学者も受け入れ、1年間の来場者数としては集計を始めてから最高となった。今年度から開始したオリジナルグッズの販売も好評であった。また、修復後の活用方法の検討に活かすため、10月の公開日より、保存活用に関する来場者意見の収集も開始することができた。	復元改修工事の実現に向け、財源の確保や修復後の活用方法・運営方法を具体化していく必要がある。公開日や関連する各種イベントに新たな試みを加えながら、建物の将来的な活用の可能性を幅広く考えていく必要がある。国内各所の渋沢栄一関連施設・団体と連携し、「道徳銀行」としてのアイデンティティを強化することも重要である。また、令和3年度から設置した「入間市文化財保存活用基金」に関する周知を続け、財源確保につなげていくことも重要である。	博物館
		○旧黒須銀行改修工事に係る実施設計の完了	完了	契約期間を延長	4		令和2年度に完了した「基本設計」、同じく策定した「旧黒須銀行保存活用基本計画」をもとに、「実施設計」を行った。しかし、事業の方向性を再検討する必要が生じたこと、新型コロナウイルス感染症の影響による業務委託の遅延の発生等で、年度内に事業を完了することができなかった。なお、事業は令和4年5月末に完了する見込みである。	旧黒須銀行の保存活用の方向性を早急に検討し、実施設計を活かした復元改修工事の事業化を進める必要がある。	博物館
		○埋蔵文化財の調査及び報告書の刊行(全調査箇所)	報告書刊行	報告書刊行	5		開発に先立つ試掘調査を13件実施し、遺跡の所在確認と適切な保存に努め、調査結果を調査報告書として刊行することで、市民の埋蔵文化財への関心を高め、保護につなげることができた。	継続的に試掘・発掘調査等を実施していくことで、市内の埋蔵文化財の保護を図っていく。また、調査した遺跡等の情報を市民へ発信するように努める。	博物館
		○地域の伝統文化を守り育む事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	3事業	4		4.0	関係機関等の連携による事業実施、参加者数、参加者の満足度から算出	地域の伝統文化を守り育む事業に取り組んでいるものの、取り組みが十分とは言えない。郷土芸能の発展と普及のため、団体を支援するとともに、地域の伝統文化の魅力を伝えられるような事業に積極的に取り組んでいく必要がある。コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。

政策4 社会教育

第2項 社会教育施設等の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)施設の充実・最適化	①博物館施設の充実 ②図書館施設の充実 ③公民館施設の充実	○常設展示室の改修計画の進展	研究の進展	進展あり	5	5.0	常設展示室改修によって削減できる事業予算を洗い出し、実施計画に計上したところ、令和4年度実施の査定を得た。	査定された予算の範囲で、より充実した常設展示室の改修ができるように計画していく必要がある。	博物館
		○博物館レストラン厨房設備第1期改修工事	実施	実施	5		計画どおり工事を実施することができた。	更新が必要な設備については、計画的な改修ができるように努めていく。	博物館
		○図書館情報ネットワークシステムの安定的運用を行うため、運営体制を整備	0回	0回	5	5.0	利用者に影響が及ぶシステムダウンは発生しなかった。	今後とも適切な運用を心掛けるとともに、不具合発生時に迅速な対応が取れるよう情報共有を図る。	図書館
		○埼玉県西部地域まちづくり協議会図書館部会を3回開催	3回	2回	5		緊急事態宣言のため2回は書面会議となったが、1回目は対面での会議が実施でき、情報共有は図れた。	現状を維持していく。	図書館
		○西武分館一般開架ホール空調工事	1件	2件	5		一般開架ホールと2階会議室Cの空調設備改修工事を実施した。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○住民の多様な生涯学習活動に対応した施設整備の充実 (1)黒須公民館、久保稻荷公民館、藤沢公民館調理室のガスコンロ修繕 (2)公民館空調設備修繕 (3)公民館給排水設備修繕 (4)公民館衛生設備修繕 (5)公民館受変電設備修繕 (6)公民館電灯設備修繕 (7)公民館昇降機設備修繕 (8)公民館消防設備修繕	工事・修繕を実施する	施設修繕60件 洋式トイレ設置工事 (扇町屋公民館、高倉公民館、西武公民館) 空調設備改修工事 (東藤沢公民館)	5	5.0	限られた予算の中で、優先度の高いものの実施ができた。	工事・修繕については、施設の老朽化に対し、対応が追いついていないのが現状であるが、公共施設マネジメント事業計画と整合性を図りながら、限られた予算の中から順次を実施していく。公民館のバリアフリー化対策として実施しているトイレの洋式化については、毎年計画的に実施していく。	公民館
		○バリアフリー化、環境等に配慮した計画的な施設整備の推進 (1)温水洗浄機能付洋式トイレ設置工事 (2)トイレ手すり設置工事			5				公民館